



**初** めての稚内訪問。到着の稚内駅では大勢の市民のみなさんに盛大に迎えていただきました。連なる丘、すがすがしい空気、野生の鹿との遭遇、枕崎とは異なる花や木々、国境地ならではの悲しい歴史も含めて市内観光は驚きや感嘆の連続でした。交流会では稚内グルメを堪能しながら「さつま白波」で乾杯し、交流を深めました。帰路の稚内空港でも、機内に入り込む直前までお見送りいただき、稚内のみなさんの心尽くしのおもてなしに大変感動しながら家路につきました。10月には稚内からの訪問団を迎えるので、その時は今回の感謝の気持ちを形にして、心に残るおもてなしでお迎えしたいと思います。



**最** 北端の地なんてなかなか行けないですから、訪問する機会を設けていただいて感謝しています。函館～札幌～稚内と電車での移動でしたが、風景を楽しみながらだったのであつという間でした。そして稚内に着いてからは、稚内のみなさんのおもてなしにとっても感激しました。稚内のいろいろな地に行かせていただいて、説明もしていただきながらだったので稚内のことを知ることができました。友好都市になってから、いろいろな活動をしているのは知っていましたが、詳しいことまで知らずにうまく説明できなかったし、枕崎のことをもっとPRしたかったなというのが反省でした。10月は稚内のみなさんにお礼の気持ちを込めて、できる限りのおもてなしで迎えたいと思います。



**稚** 内に着いた時の大歓迎ぶりにとっても驚き、枕崎を大事にしてくれているんだということを感じました。交流会で稚内の方と話をすることで、稚内では出汁は昆布だけと聞いて「鰹節と昆布で出汁を取るとまみが数倍にもなるんですよ」という話をみなさんの前でさせていただきました。稚内では鰹節がまだまだ浸透していないんだなということを感じました。もっともっと鰹節のことを知ってもらいたい、PRしなきゃいけないなと思いました。今回の稚内訪問は、いろいろなことに気付かされ、本当にいい体験になりました。10月に稚内のみなさんを枕崎で迎えるに当たって、自分自身も枕崎のことをもっと勉強しなきゃいけないなと思っています。稚内に行って本当によかったです。機会があればまた行ってみたいですね。



記念事業 第1弾

# 枕崎市民団 が稚内を訪問



①歓迎交流会では地元中学生が迫力のある南中ソーランを披露 ②白夜祭「宗谷岬」を訪れた市民訪問団 ③稚内駅では多くの稚内市の関係者が訪問



④歓迎交流会では地元中学生が迫力のある南中ソーランを披露 ⑤白夜祭「宗谷岬」を訪れた市民訪問団 ⑥稚内駅では多くの稚内市の関係者が訪問



⑦歓迎交流会参加者全員で記念撮影



最終日は、日本最北の地「宗谷岬」などを観光し、日本最北のまち稚内市を楽しんだ訪問団は、工藤市長や多くの関係者に見送られる中、稚内を後にしました。

今回は枕崎市民が稚内市を訪問しましたが、10月には稚内市民が「まくらぎぎ秋の市」の日程に合わせて、枕崎市を訪問します。

枕崎市民一体となって稚内市民の皆さんをお迎えし、両市の交流がますます深まるようにしましょう。

問合せ 企画調整課企画調整係 TEL 721111(内線225・226)

その後は、稚内サンホテルに場所を移し、歓迎交流会が開かれました。

歓迎交流会では、本市から稚内市へ記念品が贈られたほか、地元中学生による、稚内市立稚内南中学校(通称「南中」)で生まれた郷土芸能「南中ソーラン」の披露やコンカッププロジェクトの取り組みの紹介などが行われました。

夕方には駅前広場等で開催された「白夜祭」に参加。「白夜祭」では、市民訪問団を代表して久木田敏副市長が「これからも出汁をテーマにして、『食』『文化』等で一緒にやって、まちの活性化に取り組んで行きたいと思えますので、これからもよろしくお願ひします」とあいさつしました。

6月14日に枕崎を出発した市民訪問団19名は、函館・札幌を経て6月16日午後0時40分に稚内駅に到着しました。稚内駅には、「枕崎市のみなさんようこそ!日本最北の地『わっかない』へ」と書かれた横断幕を掲げ、工藤副市長をはじめとするたくさんの方々が列車から降りてくると、盛大な拍手で迎えられ、熱烈的な歓迎を受けました。

工藤市長からは「市民みんなが皆さんの到着を心待ちにしていました。短い期間ですが稚内を楽しんでください」と歓迎の言葉が送られました。

訪問団は、15日に稚内入りした久木田敏副市長や新屋敷幸隆市議会議長と合流し、稚内公園やノシャップ岬など稚内の名所を訪れました。